



NPO 法人  
青春基地

Annual Report 2020.04-2021.03

- ・一年を振り返って
- ・事業内容
- ・活動内容@東京
- ・活動内容@長野

## 2020年の総括

### -変わること、とは-

新型コロナウイルスにより、全世界が不確実性に投げ出された2020年は、学校教育においても大きな変革期となりました。「毎日通う」という当たり前が揺さぶられ様々な変化を余儀なくされ、現場は混乱と激動だったと感じます。一方で、これらの変化は、「学校はどうあるべきか」という本質的な問いを生み出したり、できる方法を探るなかで、新しい取り組みや試行錯誤が多くなされたり、よりよい方向へむかう手応えも感じてきました。

つまりこの一年は、世界中と同じくして、私たちも「変わること」について考えてきたと思います。その中で私たちは、人や組織が変わるときに大切なのは、正しさやあるべき理想に導くことではなく、当事者一人ひとりに対して、思考し、生み出せる余白や余地を確保することだと考えるようになりました。一人ひとりの潜在的な力をひきだせれば、変わりつづけられる組織になると思うからです。公立高校のなかにはICT化の課題や動きにくい硬直化した組織構造など、もどかしさも依然強くありますが、敢えて「受け身」で現場を見守りつづけ、いつでも、どんなことでもサポートをするという姿勢を取ってきました。そう手放してみたことで、先生方との本質的な議論や対話が生まれたり、新しいプログラムが創造されることとなりました。

とくに、生活や価値観の変化の大きいなかで、「身体性」や「非言語」に着目し、言語以外も通して自分自身や他者と対話をしていく、クリエイティブワークショップを手がけたことは、学力や意欲にかかわらず、高校生一人ひとりから圧倒的な表現や創造性を目の当たりにさせられました。「自己肯定感が低い」「主体性が弱い」などと大人目線で語り教えるのではなく、時代とともに子どもたち一人ひとりの価値観が多様化している様子に耳を傾け、より個を受けとめ、豊かにしていく学びを一層展開していきたいと感じています。

代表理事 石黒和己



## 1. 活動内容@東京

### 東京都立第一商業高校における5ヶ年の改革

#### 第一商業高校概要

2018年度より3年間の連携協定を結び、学校づくりに取り組んできた都立第一商業高校では、2021年度からも継続して取り組んでいくこととなりました。ここでは生徒の多様化や検定取得を重視してきた商業教育の限界、入学希望者の減少をうけ、地域や社会に開かれた新しい商業教育にむけ、全学年のビジネス科目のなかで、3年間連関型のPBLカリキュラムを導入しています。

#### 創造性や非言語の探究へ。

新型コロナウイルスの影響もあり、大幅に授業の見直しを行いつつ、新たに<CREATIVE WS>という新規プログラムを立ち上げました。

現場に足を運んでのインタビューが難しかった2020年。特別なひとではなく、気軽に大人たちと対話ができるようにしよう、行事が軒並み中止になるなかで、経験や体験できる機会をつくろう、と3日間に渡る<CREATIVE WS>が生まれました。

映像、音楽、写真、グラフィックデザインなどアーティスト6名と協働し、実際に高校生たちが作品を手がける授業です。これまでの対話やワークシートを通じた言語的アプローチではなく、非言語のアプローチを取り入れたことで、アーティスト達も驚くような作品が生まれたり、普段の様子を知る先生たちが驚くような子どもたちの熱中ぶりが見られたり、そして子どもたちの気づきやふりかえりを通して、改めて生徒たちが、自分自身のなかから創りだしていく、その大きな可能性を秘めていることに気付かされました。詳しくは冊子『CREATIVE WSの作り方』をご覧ください。

[https://note.com/seishun\\_kichi/n/n4289996bb671](https://note.com/seishun_kichi/n/n4289996bb671)

## 今年度の1年生の授業

対象：1年生全クラス（合計：約210名）

科目：ビジネス基礎（100時間分）

例年の授業を基軸としつつ、コロナ禍でのものにアップデート。

3年目となるため、先生主導による時間数を増やしなが、進めてきました。



### 9月：対話ワークショップ

コロナの影響により、オンラインで全国のメンター約70名と教室をつないで実施。「オンラインで誰かがいる」のが当たり前になるきっかけとなった授業。



### 9月：コラージュワークショップ

言語化が得意でない様子をふまえ、写真や色紙を切り貼りして、自分自身を表現するコラージュワークを導入。個人作業は誰もが没頭し、友人同士での鑑賞ではお互いに刺激をうけあい、リスペクトし合っている様子でした。



### 10月：会いたい人にインタビュー（計画）

さらに自分自身のWillを知るためのワークショップを実施した後、グループごとに「会いたい人」を計画しました。その後は先生主導で企画書執筆やアポイントを実施。



### 10月：インタビューワークショップ

慶應SFCの清水研究室の学生と協力し、実施。インタビューについてしる・考える場をつくりました。後半は実際にメンターにインタビューしてみる場をつくりました。



### 11月：ゲストとクリエイティブワークショップ

「身体性・非言語の表現」をキーワードにゲストと共に何かつくってみる3回連続授業を実施。なんと、冊子も制作しました。



### 2月：オンラインゲスト回

Willを実際にお仕事をしている、様々な業種の方のお話を聞く回。緊急事態宣言によりフルリモートとなるも、北海道から沖縄、さらにガーナと各地から中継しました。



## 生徒たちの感想

- やりたいって思ったことを自分で自由にできたから楽しかった。行事がすべてなくなったから代わりじゃないけど、この授業が唯一の楽しみだった。挑戦したいって気持ちってすごく大事だとわかった。出会えない人たちにもたくさん出会えたからよかった。自分なりの生き方大事！！人と関わることすごい！！可能性は無量大。自由でよい。
- 今まで自分自身を勝手に芸術センスの全くない人間だと思っていたけれど、私が「これで完璧！」「思いを込めて作れた！」と思えたら、それはそれでセンスのあるものではないのか、と思えるようになった。人それぞれ価値観は違うし、私や他の誰か一人だけでも認めることができたら、なにごとに関しても大成功だという風に考えられるようになった。
- 最初はどんな授業をやるのか不安だった。私は自分で作品を生み出すことがあまり得意ではないので、コラージュを作るとなったときは少し焦った。でもやっていくうちにどんどん楽しくなり皆の個性ある面白い作品を見ていくうちに「そんな深く考えずに、自分の好きなようにやればいいのだな」と気づくことができた。まだ作品を作ることは得意ではないけれど、楽しいと感ぜられるようになったので良かった。



## 2. 活動内容@長野

### 市立長野高等学校で地域に開かれた学校づくり

## 概要

長野市立長野高等学校では、2019年度から3年間の連携協定を締結し、①未来の学び方 ②未来の教育課程の在り方、そして③未来の学校の在り方と、包括的な視点で学校づくりに取り組んでいます。今年、PBLの導入を軸としたカリキュラム改革にとどまらず学校と社会を繋ぐ「iLAB」という教室の新設や、中高の連携、学校組織の土壌づくりなどについて探究し、実践してきました。



### 長野市立長野高等学校（総合学科）

長野市にある市立高校。2008年から総合学科、2017年から中高一貫校になっている。高い知性と豊かな心、そして健やかな身体という学校目標のもと、国際的な視点かつ地域に根ざした学校づくりをしている。女子バスケット部県総体ベスト4進出 サッカー部全国大会出場などの実績を残し、部活に打ち込む生徒も多い。

進路状況：進学84%、就職24%

## 今年度の2年生の授業

対象：1年生全クラス（合計：約160名）

科目：ビジネス基礎（70時間分）

中高一貫校だからこそ、6年間の連続型カリキュラムを目指し、今年度より科目名を課題研究から「翼プロジェクト-未来にはばたくマイプロジェクト-」に名称変更しました。生徒たち一人ひとりの興味関心にしたがって、それぞれが実際に動いてみることで探究を深め、自分自身の進路や未来を創造していく時間です。その実践は、先生だけでなく当団体や地域の学生・社会人など多様な人たちに支えられています。



### 一年次2月：マイプロジェクトと出会う

自分自身の興味関心や好きなことを深めたり、そもそも「マイプロジェクト」について知るために、学生や社会人のゲストたちから、マイプロをお聞きしました。

### 4月-7月 マイプロジェクトを立ち上げる

マイプロを立上げるために、まずはプレストやマインドマップを用いてみたり、先生や生徒同士で対話をしたりしながら自分自身と向き合います。そこから少しずつ「やってみたい」ことを形に落とししたり、今後のアクションにむけて、インタビューについても実践的に学んだりしました。

### 夏休み-11月 アクション&ブラッシュアップ

夏休みは、いよいよ実際に動いてみる期間。気になる人に会いに行ったり、インタビューをしたり、作ってみたり、中間発表を通してゲストの方々に最後のアドバイスをもらい、さらに探究を深めていきました。

### 12月-1月 発表会

3学期はまとめの期間。これまでの取り組みを発表とエッセイ執筆を通して振り返ります。友達の発表を聞くことで新しい発見があった生徒も多かったようです。



## iLABについて

2020年度から新たに「iLAB」という場所を新設しました。iLABは、生徒たち一人ひとりが授業にとどまらず、地域に飛び出したり、様々な挑戦や学びを広げられるようにとつくられた教室です。常駐職員もおり、探究や授業に関する相談はもちろん、授業外での探究もサポートできる体制が整えられています。

日常的にふらりと立ち寄る居場所としての機能だけでなく、アートによる探究プログラムを一般社団法人EGAKUさまと、ハーバードなど海外留学生たちとのサマーキャンプを手がける一般社団法人HLABさまなどと、学内イベントを実施してきました。



## 3. SOTEIGAIプログラム

### 社会人むけ越境学習プログラム

#### “こうあるべき”を手放す

社会人向けの越境学習プログラム「SOUTEIGAI」とは、公立高校の学校改革をフィールドとして、高校生たちとの対話や学びづくりを起点に、自分自身の〈内発的動機〉と向き合う半年間にわたる長期プログラムです。高校生たちの変化やトライを間近で目撃しながら、参加者自身も自分自身のマイプロジェクトを実践していきます。3年目となる今年は、個人参加を開始。段々と「こうあるべき」を手放しながら、それぞれらしく肩肘張らずに動いていく様子、むしろ「自分は変わらなくていい。でも、自分にできることがあるはず」と話してくれる様子が印象的でした。

#### 参加者のみなさんの声

- WSごとに振り返りを行う中で、新しいことをどんどんやってたいという気持ちがあることに気づいた。
- 対話やプログラムを通して、自然とからだをほぐしたり、自分のことをこころから受け入れたりするようになった。この「場」が心理的安全性の極み、だと感じているからだと思う。
- 高校生と対話したり、やりたいことにチャレンジしたりする中でにより柔軟な変化・適応ができるようになったんじゃないかなと思う。
- 今まで仕事で「これでいいかな？」と自信がなかったけれど、このプロジェクトを通して、何をやっても否定されないということにホッとするという感覚を持って、とりあえずやってみようようになった。ただ自分自身のは変わってなくて、勝手に何かできるようになっていった感じがする。

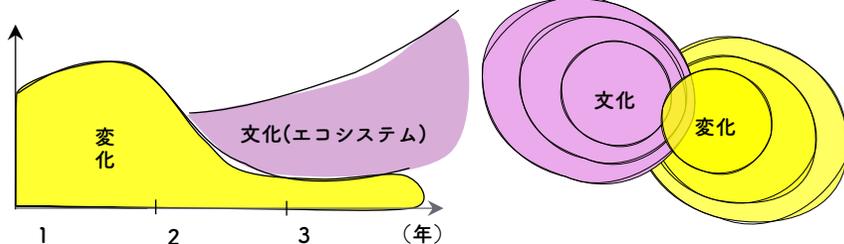
## 4. 探究総合研究所 (TANKEN)

複雑なものを複雑なまま捉える

組織の土壌の研究、はじめます。

この数年間、中長期にわたって学校改革を進めるなかで、こどもたちのための学びづくりも大切ですが、それを支えるためにも、大人たちや組織そのものを支える重要性を強く実感してきました。外から届けるだけでなく、内側から自ずと動きが生まれていくことで学校がより豊かになるのではないかと。そんな文化が生まれる場づくりとして、組織の「土壌」に着目し、土壌づくりに取り組んでいきたい。そこで現場での実践だけでなく、研究を進めていく「探究総合研究所 (TANKEN)」を発足させました。

ここでは、組織内のメンバーたちを中心としつつ、教育学、組織論、哲学、ときに文化人類学や社会学、ランドスケープやアフォーダンスなど様々な角度や分野とメンバーとともに、複雑なものを複雑なまま捉えるシステム思考や複雑系の視点から、動的に研究を進めていきます。



## Pick Up News!

### 青春基地のnoteをご紹介します！

[https://note.com/seishun\\_kichi](https://note.com/seishun_kichi)



青春基地のnote、更新しています！

こちらは代表石黒による連載「学びのライナーノーツ」。現場で起きている出来事から、私たちが考えていることが綴られています。日々実践・研究を続けているなかで、どのようなことに気付かされ、動いてきたのか、今後も移り行く青春基地のあり方をぜひチェックしていただくと嬉しいです。



### 2020年度収支報告(2020.4.1-2021.3.31)

収入	受取会費	¥50,000
	受取寄付金	¥111,850
	受取助成金等	¥2,434,750
	事業収益	¥4,223,963
	その他(利息等)	¥66
収入合計		¥6,820,629

支出	事業費	¥8,498,196
	管理費	¥882,709
支出合計		¥9,380,905

収支	当期正味財産増減	△¥2,560,276
	前期繰越正味財産	¥9,528,642
	次期繰越正味財産	¥6,968,366

## 特定非営利活動法人 青春基地

〒153-0051 東京都目黒区上目黒1-18-3シュウビル308

MAIL : [info@seishun.style](mailto:info@seishun.style)

公式HP : <http://seishun.co>

ウェブマガジン青春基地 : <http://seishun.style>

NPO 法人  
青春基地

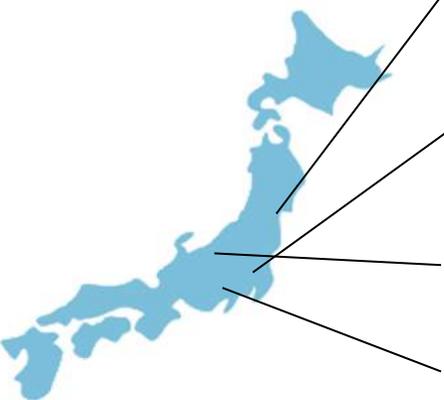
## まとめ

※2017年から2021年3月現在のみ

### ①公立高校における学校改革プロジェクト

3～5年の長期間を学校と連携協定を結び、PBLを取り入れたカリキュラムイノベーションを軸に、包括的な学校づくりを協働している。

#### 4校にて約1245人の高校生に提供

- 
- 2017年度  
福島県ふたば未来学園（総合学科・30名）  
場所：ふたば群広野町  
科目：未来創造探究
  - 2018年～2022年度(予定)  
東京都立第一商業高校（商業科・835名）  
場所：代官山（渋谷区）  
科目：ビジネス基礎ほか
  - 2019年～2021年(予定)  
長野県市立長野高校（総合学科・320名）  
場所：長野市  
科目：総合的な探究の時間
  - 2017年～2018年度  
山梨県立富士北稜高等学校（商業高校・60名）  
場所：富士吉田市

1校につき、年間200～300人のメンターが参画

※第一商業高校では3年間で1000人強のメンターが参画

### ②PBLプログラムの提供

連携校のほかにも、各学校単位や教育委員会主催等の中高生向けのPBLプログラムを提供。

約15校にて約2500人の中高生に  
プログラムを提供

### ③社会変革事業

教育の再定義にむけたアプローチを模索するべく、企業やソーシャルセクターと連携・協働した社会変革プロジェクトや、組織の土壌づくりを研究するプロジェクト「探究総合研究所(TANKEN)」、企業向けプログラム「SOTEIGAI」などを実施している。



NTT DATA  
NTTデータ システム技術株式会社

Microsoft

一般社団法人  
ELAB

長野県  
Nagano Prefecture

社会創発塾  
Social Emergence School

fora  
電子学習支援技術開発センター

ほか